

白河市の維持向上すべき歴史的風致

計画期間
令和3年度(2021)~令和12年度(2030)

白河市は、近世初頭に白河藩の政治経済の中心地として小峰城とその城下町が整備され、周辺の地域とともに今日まで発展してきました。小峰城跡やその城下町には、歴史的街路や町並み、歴史的建造物が集積し、往時の面影を伝えています。そして、そこには白河提灯まつり、白河だるま市などの伝統行事、酒造業を中心とする伝統産業、史跡及び名勝南湖公園の花見などの行楽が受け継がれ、歴史的建造物と一体となって、良好な歴史的風致が形成されています。また、奥州街道・会津街道などの歴史的街道が市全域を通り、その街道沿いにはそれぞれ集落が形成され、それらの集落では、歴史的建造物を背景に、年中行事・祭礼が伝承されています。

01. 白河提灯まつりにみる歴史的風致

白河提灯まつりは、隔年の9月に3日間開催され、昼間は、鹿嶋神社の御神体を移した神社神輿が旧城下町を渡御する総町渡御や、子供たちによる屋台・山車の引き回しが行われ、夜には鹿嶋神社の神輿が各町内の提灯行列によって送迎される神輿渡御が行われます。

神社神輿の提灯行列▶



02. 白河だるまと白河だるま市(市神祭)にみる歴史的風致

白河だるま市は、毎年2月11日に開催されます。「市」が近づくと、だるま製造所では、早朝から深夜までだるま製造に追われる光景がみられます。「市」当日は、旧奥州街道の約1.5kmの通りの両側に縁起物の白河だるまや飾り物などを売る露店が立ち並び、まち全体が活気に包まれます。

白河だるま市の賑わい▶



03. 酒造業にみる醸造業の歴史的風致

小峰城の城下町は、人や荷物が集散中継する小都市として、様々な産業が繁栄し賑わいをみせていました。江戸時代から、現在に受け継がれている産業のひとつが、醸造業(特に酒造業)です。これは、白河が那須山系を源流とする阿武隈川流域の良質で豊富な地下水に恵まれているからです。

酒造りに取り組む社氏▶



04. 南湖公園の行楽にみる歴史的風致

南湖は、「寛政の改革」を行った白河藩主松平定信が、享和元年(1801)に築造しました。南湖は塀や柵を設けず、藩主や武士階級はもとより庶民が楽しむために造られました。現在においても、花見、舟遊び、散策、茶会等の行楽を目的とした市民を中心に、様々な人たちが訪れています。

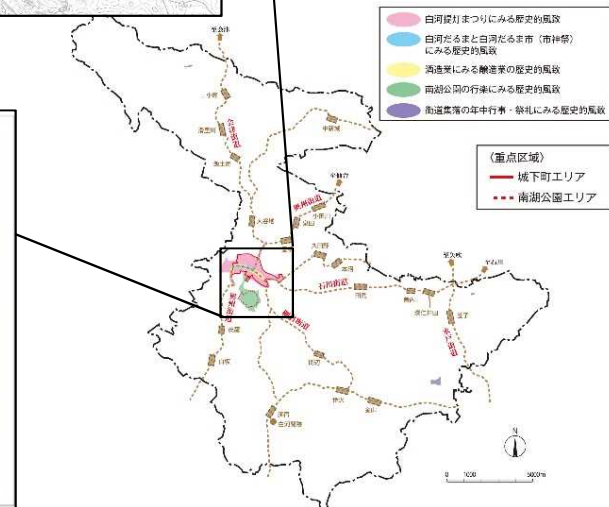
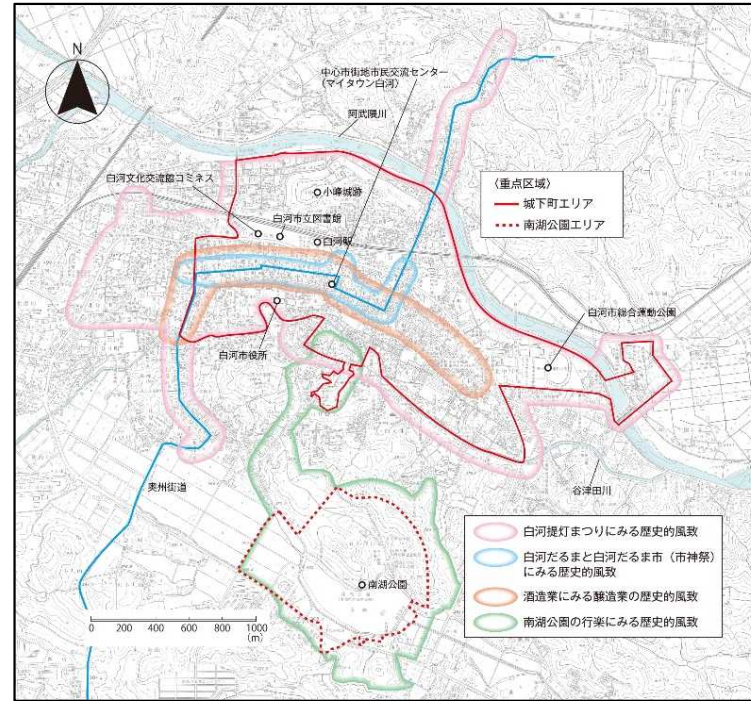
共楽亭での茶会風景▶



05. 街道集落の年中行事・祭礼にみる歴史的風致

小峰城の城下町を中心に交わる奥州街道・会津街道・棚倉街道・石川街道・水戸街道などの街道沿いには、それぞれ集落が形成され、現在まで発展してきました。それらの集落では、人々の生活や歴史的建造物を背景に、年中行事・祭礼が伝承されています。

河東田牛頭天王祭▶



白河市の重点区域における施策・事業概要

重点区域の名称と面積

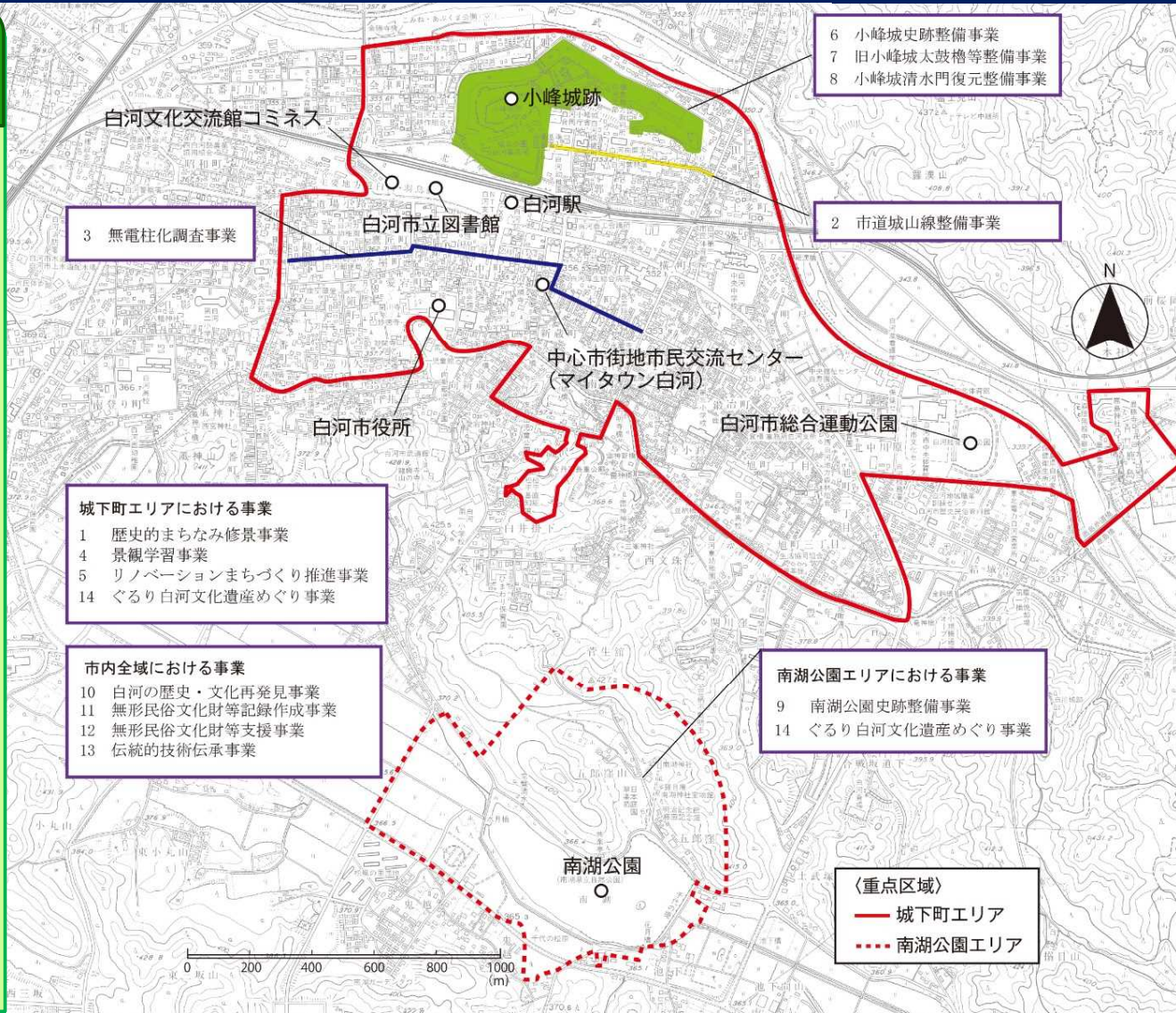
名称:城下町エリア 約255.2ha

南湖公園エリア 約75.7ha

重点区域概要

城下町エリアの区域は、国指定の史跡小峰城跡を中心として形成された城下町と、白河提灯まじりの神輿の総町渡御や提灯行列の運行ルート及び祭礼が執行される鹿鳴神社境内とその周辺で、歴史的建造物が集積しており、歴史と伝統を反映した人々の活動が現在も展開され、それらが一体となって良好な市街地環境を形成している地域とする。

南湖公園エリアの区域は、南湖公園一帯が「南湖県立自然公園」に指定されていることから、史跡名勝指定範囲とその周辺で歴史的建造物が集積しており、歴史と伝統を反映した人々の活動が現在も展開され、それらが一体となって良好な市街地環境を形成している地域とする。



3 無電柱化調査事業

城下町エリアにおける事業
 1 歴史的まちなみ修景事業
 4 景観学習事業
 5 リノベーションまちづくり推進事業
 14 ぐるり白河文化遺産めぐり事業

市内全域における事業
 10 白河の歴史・文化再発見事業
 11 無形民俗文化財等記録作成事業
 12 無形民俗文化財等支援事業
 13 伝統的技術伝承事業

南湖公園エリアにおける事業
 9 南湖公園史跡整備事業
 14 ぐるり白河文化遺産めぐり事業

〈重点区域〉
 — 城下町エリア
 南湖公園エリア

歴史的まちなみ修景事業

旧奥州街道沿いの商家や蔵などの歴史的建造物を景観計画・景観形成ガイドライン等に基づく修景整備に対して支援を行うことにより、歴史的建造物の保全と連続性のある町並み景観の形成を図ります。



景観学習事業

子供たちに「まち」や良好な「景観」に対して関心を持たせ、景観やまちづくりへの意識を高めてもらうことを目的として、大学と協力して実施しており、先生の講義のあとに大学生と一緒にまち歩きを行います。



小峰城清水門復元整備事業

清水門は、小峰城主郭部への入り口として結界の機能を有し、本丸へと至る動線上の位置に所在した櫓門です。史跡小峰城跡の重要な建造物であった清水門を、文献や発掘調査に基づき復元することで、史跡としての価値の向上を図ります。



ぐるり白河文化遺産めぐり事業

城下町エリアには、歴史的な町並み景観や寺・神社などの歴史的・文化的資源が多く残されています。こうした本市の歴史・伝統・文化に触れながら街なかを回遊することで、地域資源の価値を再認識する機会を創出し、まちなか回遊性の向上を図ります。

